

第5学年 国語科学習指導案

期日：平成19年10月18日(木)

学習者：春日北小学校5年1組 児童38名

授業者：T.1 教育センター 所員 坂元 俊文

T.2 春日北小学校 教諭 中島 正敏

1 単元名 森林早見図をつくろう

～「森林のおくりもの」パワーアップ大作戦～

教材「森林のおくりもの」(東京書籍5年下)他

2 単元観

本単元は、森林の働きを図式化した「森林早見図」づくりをしながら、筆者の表現の意図を読む力を付けていくために設定した。「森林のおくりもの」とは何か、どのように事例をあげているか、なぜそう書いたのかを読み取らせながら、ものごとを関連させながらとらえていく筆者の認識の方法をとらえさせていく。また、「森林のおくりもの」に書かれていない情報を調べて読む活動を通し、情報を目的をもって主体的に読んでいく力に培いたい。

(1) 児童観

本学級では、9割を超える児童が図書の本を読むことを好んでおり、朝の「読書の時間」は夢中になって本を読む姿が見受けられる。しかし、説明文を読んでいる児童はほとんどおらず、「シリーズ」といった物語など、フィクションに偏りがちである。これまでの説明的文章の学習においては、何が書かれてあるかといった内容を読む学習を行ってきており、どのように書かれているかといった書きぶりに目をむけて、表現や論の展開を吟味する学習には慣れていない。1学期は「動物の体」を教材に、文章の要点や要旨を叙述を基に正確に読み取っていく学習を行った。文章から求められた情報を読み取る力の個人差は大きく、課題解決のために長い時間、文章に向き合えない児童や文章量の多さに抵抗を感じる児童も見受けられた。しかし、事例を読むことをおもしろく感じている児童は多く、動物の事例に着目させることで、段落のまとめや段落相互の関係について意欲的に学習を進めることができた。単元の終末に「筆者は、なぜいろいろな動物を例にあげながら説明しているのだろうか」といった筆者の事例の意図を問う発問については、的確に答えられた児童は3割程度であり、内容を十分に理解させた上で筆者の書きぶりを考えさせていくことが必要である。自分の考えを書くことを面倒に感じたり、発表することを恥ずかしく思っている児童は少なくない。しかし、読み取ったことを図や表、絵などに表現する図鑑づくりやパンフレットづくりについては、学習経験もあり、7割を超える児童が楽しいと思っている。

(2) 教材観

本教材は、「森林は生きている(富山和子著 講談社)」の第1章「日本は森の国です」をもとに筆者の理解を得て書き下ろされた教材である。序論では、ヨーロッパと日本を比較しながら、森林にめぐまれた「木のくらし」ぶりをあげ、本論に導いている。本論前半では、「木材」に始まり「紙」「火」の「おくりもの」をあげながら、森林の素晴らしさを伝えている。本論後半では、「別のおくりもの」として「水」「土」をあげながらも米作りや防災等、人間の生活を支える目に見えない森林の働きにまで言及している。そして、結論では、「森林のおくりもの」は先祖の遺産であり、「お世話になり続けてきた」森林を育てる仕事の再考を訴えて論を結んでいる。森林から掛け離れたように思える人間の生活や命が森林によって支えられていることが、多様な事例とその巧みな論の展開から納得させられる。「おくりもの」という

言葉をキーワードに全文を通読し、既知の事実や事例を関連付けながら、児童とのかかわりにおいて森林をとらえ、環境問題に対しての新しい認識をもつことができる教材である。事例のあげ方や題名の工夫、そして問題提示、呼びかけ、擬人法など読者を引き付け、自分の主張を分かちあうための表現の工夫がされている。その一方で事例が多い上に、事例相互の関係や事例とその働きの記述が省かれているところがある。また、序論・本論を受けての結論としての筆者の主張など、説明文の論の展開としては、筆者の考えが唐突に感じられる部分があることも否めない。しかし、説明の不十分な点が明確になることで、もっと知りたい調べたいといった読書活動への課題や意欲へとつながっていく教材でもある。

(3) 指導観

本単元では、特に以下の点に留意して指導を展開する。

「おくりもの」をキーワードに「森林早見図」づくり

序論、本論前半、本論後半、結論と教材文を4つに分割したワークシートを提示し、どんな森林の「おくりもの」の事例が、どのようなつながりで書かれているか、児童に関心を持たせながら「森林早見図」をつくらせていく。叙述を基にしながらも、「おくりもの」とそのつながりが、よく分かるように図式化したり、「森林のおくりもの」には書かれていない情報を調べるような目的を明確にした読書活動にする。でき上がった「森林早見図」は、校内LANによって、パソコンを通じて、全校児童が閲覧できるようにし、活動意欲を喚起したい。

事例から筆者の考えや意図へ

単元の前半では、書かれている内容を理解させながらも、筆者が自分の考えを伝えるための事例のあげ方やそう書いた筆者の意図を読み取らせていく。事例を抜き出し、関連を明確にすることで、要旨をとらえやすくさせる。さらに、なぜ筆者がこのように事例をあげたのか、「森林早見図」を基に事例やその展開の効果を考える場を設け、自分の立場から情報を読ませていく。その際、サイドライン法や付箋紙による操作活動、「書く活動」等を取り入れ、個々の「読み」をしっかりと持たせながらも、その「読み」を集団によって高めていく。

T・Tによる指導

全体指導においては、T.2が児童役となり、どのような読みを発言すればいいのか模範を示す。筆者の意図や表現の効果を読むことについても慣れていないので、必要に応じてヒントになる発言を行っていく。個別指導においてT・2は、特に内容理解が難しい児童に対し、語彙面から支援する。

単元外での指導

単元に入るまでに環境問題に関する話やクイズを行い、教材に対する関心を高めるとともに、基本的な環境問題に関する知識をもたせ、認識を深める伏線としたい。また、単元と並行して、教室に自然や環境問題に関する図書や新聞記事などのコーナーを設ける。「早見図」についても、書き方や図の意味を理解させるために、プリント学習を行い、図式化が効果的な手段となるようにしておきたい。

3 単元の指導目標

「森林早見図」づくりをしながら、筆者のものの見方、考え方がどのように述べられているか、叙述を基に読み取り、それに対する自分の考えを持てるようにする。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
ア 森林と人間のかかわりについて書かれた文章を読み、自分の考えを明らかにしようと学習を進めている。	イ 文章の内容を的確にとらえ、筆者の考えや述べ方に対して自分の考えを持ちながら読んでいる。 【学習指導要領 C読むこと (1)イ、エ】	ウ 事例としてあげられている語句を類別したり、関連付けたりしている。 【学習指導要領 言語事項 ウ語句に関する事項ア】

5 単元計画 (全11時間)

次	時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
一	1	<p>「森林早見図」をつくる単元の活動を見通し、学習課題をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名から連想することをウェビングする。 ・ 序論に書かれた「おくりもの」は何かを読み取る。 ・ ヨーロッパの事例をあげた筆者の意図を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「森林」や「おくりもの」にかかわる児童の体験やイメージを自由に出させ課題につなげる。 ・ 木で作られたものにサイドラインを引くように助言する。 ・ ヨーロッパの石や金属の事例がある場合とない場合とを比較させることで、対比表現の効果に気付けるようにする。 	<p>ウ 木材で作られた事例を抜き出している。[サイドライン]</p> <p>イ 対比表現及びその効果に気付いている。[ワークシート]</p>
二	2 3 本時	<p>木材を利用した「おくりもの」について「森林早見図」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本論前半に書かれた「おくりもの」は何かを読み取る。 ・ 木材の事例を整理する。 ・ 木材の事例をあげた筆者の意図を話し合う。 ・ 紙と火の事例を整理する。 ・ 紙と火の事例のあげ方や筆者の意図について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始めに木材名を押させることで、用途や特長を的確に抜き出せるようにする。 ・ 木材の事例の種類が多いこと、木材が生きていることや長生きすることの良さに着目させることで、事例の意味に気付けるようにする。 ・ サイドラインや付箋紙を活用させたり、板書で語句のつながりを分かりやすく整理し語句の概念をとらえやすくする。 ・ 「早見図」を視覚的情報として与え、筆者の意図に気付けるようにする。 	<p>ウ 「森林のおくりもの」となる事例を抜き出し、早見図にしている。[サイドライン]</p> <p>イ 事例のあげ方の特徴や筆者の意図について表現している。[ワークシート]</p>

三	5 6	<p>「別のおくりもの」について「森林早見図」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本論後半に書かれた「おくりもの」は何かを読み取る。 ・ 本論前半と後半の事例を比較し「別の」の意味についてを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いの文に対する答えを表す文にサイドラインを引くように助言する。 ・ 「森林早見図」のどこに「別のおくりもの」が位置付くかを考えさせることで、前半と後半の事例の違いをとらえられるようにする。 	
四	7	<p>「おくりもの」と題名を付けた筆者の意図を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「おくりもの」の辞書的意味だけでなく、擬人法、多様な事例から読み取れる筆者の願いなど多様な視点を提示し、考えを出し合わせるようにする。 	イ 森林の働きと人間生活のつながりから自分なりの考えを書いている。【ワークシート】
五	8 9 10	<p>他の図書を読み、「森林早見図」をパワーアップする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「森林のおくりもの」に関連してさらに調べたことを出し合う。 ・ 森林や環境問題に関する図書を読む。 ・ 知っていることや調べて分かったことを「森林早見図」に書き加える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前もって教室に関連図書のコーナーを設けたり、目次や索引の活用を促したりする。 ・ 拡大した「森林早見図」を準備し、調べたことを随時書き込めるようにする。また書き加えられそうな場所を示唆しておく。 	ア 「森林早見図」の事例に関連する図書を選んで読んでいる。【観察】 ウ 事例のつながりを考えながら、情報を書き加えている。【ワークシート】
六	11	<p>単元の学習を振り返り、今後の読書活動を見通す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「森林早見図」に付ける個人のコメントを書く。 ・ もっと知りたくなったことを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元導入でのウェビングと内容との比較、「森林早見図」のよさ、環境問題に関する児童の考えなど書く視点を提示する。 	ア 早見図を基に森林に対する自分の思いや考えを書いている。【ワークシート】

6 本時の学習（4 / 1 1 時間）

(1) 目標

紙と火の「おくりもの」としてあげられた事例の違いやつながりを読み取りながら、筆者の事例のあげ方の特徴やその意図をとらえることができる。

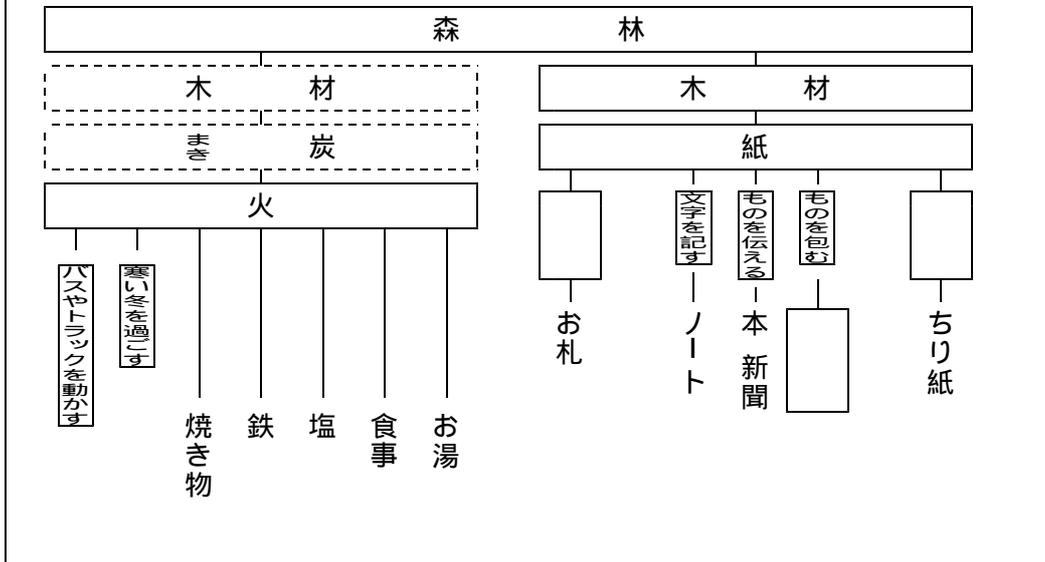
(2) 展開 (判定基準・・ A 十分達成 B おおむね達成 不十分な児童への支援)

過程	学 習 活 動	指 導 * 評 価	
		T . 1	T . 2
導 入 / 展 開	1 前時までの学習を想起し、本時のめあてをもつ。	本時の学習活動に意欲と見通しをもたせるために、「森林早見図」づくりに貢献した「読み」や発言を児童名をあげながら紹介する。	これまでの学習でできた「森林早見図」をプロジェクトで提示する。
	紙と火の「おくりもの」のつながりがよく分かるような「森林早見図」をつくろう。		
	2 紙と火の「おくりもの」の関連が分かるように早見図をつくる。 (1) 紙の「おくりもの」の事例を整理する。 (2) 火の「おくりもの」の事例を整理する。	<p>事前に抜き出させておいた「おくりもの」を発表させ、目に見える生活用品と目に見えない紙の働きや火の役割として表現されている語句の全部を確認できるようにする。</p> <p>事例を書いたカードを黒板に貼って整理したり、付箋紙の操作をさせたりすることで、事例とその働き、事例としてあげている語句の概念等がとらえられるようにする。</p> <p>* 事例を類別したりつなげたりしながら並べている。 【評価規準ウ：発言 ワークシート】 A 事例をそこに位置付ける理由を明確にしながらか並べている。 B 縦の語句のつながりを考えて並べている。 上位概念の語句を先に選んだり、対や仲間になる語句をまとめたりするように促す。</p> <p>白紙のカードを貼ることで、紙の働きや紙製品が省略されていることに気付けるようにする。また、「炭やまき」の位置を問うことで、森林と火の間にあるべき「森林」から「火」の間にあるべき記述の省略に気</p>	全体で早見図を確認する際は、必要に応じて、児童役になり、事例の位置等に対する質問をしたり、比較させるために違う事例の位置付けをした早見図を出したりする。

付かせていく。

展

【予想される森林早見図】



開

3 完成した森林早見図を見て気付いたことや思ったことを書き、発表する。

【期待する事例の着眼点】

- ・事例の数の多さ
- ・事例の種類の多さ
- ・事例のつながりの長さ
- ・木材、紙、火の3つの事例の違い 等

「木材からできた紙の事例」「木材からできた炭やまきから出る火によってできた事例」に加え、事前に学習した「木材の事例」も提示し、比較させることで、森林に近い事例から遠い事例へと順序よく説明している筆者の意図を読み取れるようにする。

* 事例のあげ方の特徴やそれに対する自分の考えを表現している。【評価規準イ：ワークシート 発言】

A 筆者の事例の意図やその効果について書いたり話したりしている。

B 事例のあげ方の特徴について書いたり話したりしている。

板書の早見図を基に、事例の数や種類、事例の違いに着目させる。

早見図の視覚的な理解の助けを借りながら、森林から事例が遠くなっていることに気付かせ、なぜそのように書いたのか筆者の意図を探れるようにする。

事例の特徴に気付かせるために、必要に応じT.1の発問に対し、児童役になり、事例のあげ方についての発言をする。

/ 終末

4 今後の学習を見通す。

本論後半の「別のおくりもの」も早見図に位置付けていくことを確認する。

「別の」の意味を意識させるために、児童役になって質問する。